

一般社団法人 日本看護研究学会 近畿・北陸地方会の活動について

世話人代表：上野栄一（福井大学）



皆様いかがお過ごしでしょうか。寒い季節になってきました。お身体ご自愛ください。

今日は、本地方会及び本年度の活動についてご紹介したいと思います。

本地方会は一般社団法人 日本看護研究学会の地方組織として、近畿・北陸地区に於いて、

看護学の研究と教育並びに実践の進歩発展に寄与することを目的として、1) 地方会の運営、

2) 学術集会および 学術講演会などの開催、3) 関係団体との連絡提携、4) 会員相互の親睦、5) その他目的達成に必要と認められる活動を行っています。

今年平成24年を振り返ってみますと、まず3月3日に日本看護研究学会第25回近畿・北陸地方会学術集会を学術集会長：藤原千恵子先生のもと大阪大学医学部保健学科で開催されました。**継続セミナー**では、**第15回看護研究継続セミナー**が、平成24年10月20日（土）に開催されました（富山福祉短期大学）。第1部は、「看護研究における調査用紙の作成と統計解析」：大野木裕明（仁愛大学子ども教育学科教授・学部長）。第2部では新規研究グループ、グループ活動報告などを行いました。

第16回看護研究継続セミナーは、平成24年11月10日（土）に京都府立医科大学医学部看護学科で開催されました。

第1部は、講演会「看護研究における統計」浅野弘明（京都府立医科大学大学院保健看護研究科）でした。

第2部では、新規研究グループわけ、グループ活動報告などが行われ、両継続セミナーとも活発な意見が出ました。

継続セミナーはとてもアットホームな雰囲気がよいと思います。私は、地方会学術集会、継続セミナーに参加して思うことは新しい学びがあることと、多くの方々と研究について意見交換や情報交換できることです。これからも多くの方々の参加をお待ちしております。

継続セミナーの様子は、**地方会のホームページ**で写真で紹介するほか、参加者の感想なども載せています。

是非お読みください。**リレーブログ**も研究に関する個人の記事が載っています。是非こちらの方にもご参加ください。会員の情報交換の場としても人気があります。また、**ニュースレター**では、会員の皆様への地方会の情報提供をしています。

平成25年3月2日（土）には、日本看護研究学会**第26回近畿・北陸地方会学術集会**を和歌山県立医科大学保健看護学部で学術集会長：山田和子（和歌山県立医科大学保健看護学部長）のもと開催することになりました。テーマは、「臨床と教育との協働-実践で活用できるエビデンス」です。これからの臨床と教育の協同は看護ケアの質の向上に大きな貢献が期待できると考えます。皆様のご参加をお待ちいたしております。

平成25年も様々な企画をしまいにあります。今後とも本地方会の運営に皆様のご協力のほど宜しくお願い致します。

第26回 近畿・北陸地方会学術集会のご案内

テーマ「臨床と教育との協働」

平成25年3月2日（土）開催

学術集会長：山田和子（和歌山県立医科大学）



校舎(会場)

近畿・北陸地方会の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

第26回近畿・北陸地方会学術集会を平成25年3月2日（土）に和歌山県立医科大学保健看護学部で開催することになりました。医療技術が高度化、専門分化する中、看護実践も複雑・専門分化し、確かな看護実践あるいはエビデンスの創成の必要性が言われています。確かな看護実践あるいはエビデンスの創成には、臨床と教育の看護職が協働して行うことが有効です。そこで、本学術集会ではより良い看護ケアを目指していく意気込みをこめて「臨床と教育との協働-実践で活用できるエビデンスを求めて」をテーマに掲げました。

シンポジウムでは「実践で活用できるエビデンスを求めて-実践・研究・教育の立場から-」をテーマに、実践現場で活躍されているがん看護専門看護師、退院調整看護師、また教育・研究領域で活躍されている大学教員の方々から話題を提供していただきます。また、特別講演は「臨床と教育との協働」をテーマに、本会の世話人代表である上野栄一先生（福井大学）にお願いしました。

学会場の近くには紀三井寺があり、早咲き桜の名所として知られています。また古代万葉人が多くの短歌を残した和歌の浦もあります。

本学会において初めて和歌山での開催となります。多くの皆様のご参加をお待ちしています。



紀三井寺



JR紀三井寺から歩10分

県立医科大学 医学部

県立医科大学 保健看護学部

至海南

一般社団法人日本看護研究学会 近畿北陸地方会事務局

〒910-1193

福井県吉田郡永平寺町松岡下合月 233 福井大学

TEL：0776-61-3111(内線2635)

FAX：0776-61-8165

e-mail: kyoshi@u-fukui.ac.jp

北野 華奈恵【庶務担当】

〒910-3190

福井市江上町55字鳥町13-1

福井医療短期大学

TEL：0776-59-2204

FAX：0776-59-2205

e-mail: hitomi.fcm-ns@khh.biglobe.ne.jp

藤本 ひとみ【会計担当】

会員の皆様方と地方会の活動情報を共有できる紙面づくりを目指していきたいと思っております。皆様のご意見ならびにご投稿をお待ちしております。
ニュースレター担当：西菌貞子、坪田恵子

研究相談+α

近畿・北陸地方会看護研究継続セミナーのご紹介

今年度は研究の相談に加え、講演会で統計を学びました。

看護研究継続セミナー調査担当委員会委員長 西田直子

近畿・北陸地方会看護研究継続セミナーは、平成17年に平田雅子先生、黒田裕子先生、若村智子先生と私と4人が看護研究の質を高める地方会活動をしたいと企画し始めました。平成18年度には地方会で活動を承認され、看護研究継続セミナー活動（以下継続セミナー）が毎年開催されることになりました。日本看護研究学会近畿・北陸地方会看護研究継続セミナーの活動の目的は、臨床や教育の現場で働く看護職者が、看護実践の質を高めるための研究を推進することです。継続セミナー参加者が、看護研究に関する研修会に参加し、グループで研究活動を行い、日本看護研究学会や本地方会で発表や論文投稿をできるように活動してきました。看護研究継続セミナーの組織は、委員長、書記、会計、セミナー委員（各近畿・北陸1名）で構成されています。平成20年度からは近畿と北陸地方それぞれで継続セミナーを開催し、専門領域ごとにコーディネーターをおき、グループ運営を行っています。コーディネーターは、看護研究継続セミナーのセミナー委員会の依頼により、グループ活動を行っています。看護研究を進める上で困ったときにコーディネーターに相談や指導が受けられます。今年の第15回・第16回の看護研究継続セミナーでは、前半に看護研究における統計的な分析についての講演を企画し、大変好評でした。また、後半ではコーディネーターを中心にグループワークを行い、参加者の研究に関する悩みを聞き、意義ある時間を過ごしました。

看護研究を進める上で困った方は、ぜひ看護研究継続セミナーの事務局にご相談ください。コーディネーターをご紹介し、一緒に考えていきたいと思っています。

研究の相談にたっぷり時間をかけて対応してくれるので嬉しい！

近畿地方：山本恭子（園田学園女子大学）e-mail：yyukiko@sonoda-u.ac.jp
北陸地方：上野栄一（福井大学） e-mail：eiichiu@u-fukui.ac.jp



ブログで語り合
みましょう！

リレーブログのご案内

ホームページ編集担当 明神 一浩

近畿・北陸地方会にリレーブログを開設いたしました。

正式に運用を始め6ヶ月あまり経過をしております。このリレーブログを開設した経緯は臨床の看護師から研究のノウハウを学びたいが、”どのようにしたら、研究を学べるか”や大学院に入学をしたいが、研究テーマを見つけたいがどのようにしたら良いのかわからないなどの質問を受け、そのような疑問を臨床現場の看護師や大学の教員などが所属している看護研究学会の地方会の一つの取り組みとして、昨年度より試験的に実施していたものを正式に今年より運用を開始いたしました。

昨年度は研究の倫理的配慮というテーマで議論を重ねてまいりました。このブログは看護研究学会の学会員で尚且つ、近畿・北陸地方に所属している学会員を対象にした取り組みで、様々なテーマで議論ができるようにスレッドごとにテーマごとに発信ができるようになっております。

大学側では看護学科でおこなわれる研修会の案内や、講座での研究テーマを発信することで、大学院を目指す社会人が入学を考える一つの手立てとなるのではないかと考えております。また、臨床の看護師からは、様々な研究テーマの相談事など、ブログを通じて有識者からの回答が期待できます。

更に興味のある方が看護研究学会に加入して頂けるものと期待しております。ブログ活用で、近畿・北陸地方会をさらに盛り立てていきましょう。

日本看護研究学会第25回近畿・北陸地方会学術集会を終えて

学術集会会長 藤原千恵子(大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻)

学術集会は、平成24年3月3日（土）の晴れやかな初春の中、大阪大学医学部保健学科棟で開催しました。

今回の学術集会では、大学の講義室の収容人数に制限があるため、各会場に分散して、参加できるテーマ選択制にし、午前中の講演3つ、午後のセミナー5つを準備するという企画にしました。そのため、各会場では適度の人数になり、ゆったりと参加していただき、本当によかったと思いました。しかし、演題発表はすべてポスター形式で、狭い講義室で2群同時の発表になった場所もあり、お互いの声が気になったとの声もいただき、会場配置の工夫が必要だったと反省しています。

参加人数は、200人弱で、学術集会の宣伝の仕方をいろいろ工夫する必要があると考えています。経費節減するために、準備から当日の運営まで、すべて大学の教員や院生の無償の協力を得ました。大学の会員総出で大変でしたが、アットホームな雰囲気での活動が、学生や院生にとって学会を身近に感じる機会になればと願っています。

発表風景



手作りの
温もり…